

第2次安曇野市スポーツ推進計画に係る第7回策定委員会 会議概要

1	委員会名	第2次安曇野市スポーツ推進計画策定委員会
2	日 時	平成30年1月26日(金) 午後7時00分から午後8時30分まで
3	会 場	安曇野市役所本庁舎3階 共用会議室306
4	出席者	古澤会長、加々美副会長、古屋委員、小池委員、二木委員、鈴木委員、湯本委員、内田委員、古川委員、太田委員、丸山委員、布山委員、宮澤委員、清水委員、古幡委員、新井委員、一志委員、矢野委員 ※出席委員総数：18人
5	欠席者	なし
6	市側出席者	蓮井生涯学習課長、米倉スポーツ推進担当係長 スポーツ推進担当 平林主事、藤原主事 株式会社KRC 藤村室長
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	0人 記者 0人
協 議 事 項 等		
1	会議の概要	
	(1) 開 会	
	(2) あいさつ	
	(3) 協議事項等	
	①パブリックコメントの意見及び回答案について	
	②計画の最終案について	
	(4) そ の 他	
	今後のスケジュールについて	
	(5) 閉会	
2	協議事項概要	
	(1) パブリックコメントの意見及び回答案について	
	【事務局】 パブリックコメントを実施したところ、1名から3つの意見が提出された。事務局としては別紙のとおりで、計画には反映しない方向で検討している。	
	【委 員】 (コーディネーショントレーニングが「子どものスポーツ推進」にしか記載されていないので、他の年代の取り組みにも追加してほしいという意見に対して) コーディネーショントレーニングについては、現在教育委員会で取り組んでいる内容は子どもを対象とした活動が中心となっているが、過去には高齢者向けの教室も開催している。まず指導者の育成に力を入れ、指導者が増えて余裕ができれば幅広い年代を対象に活動することができるようになる。そういった状況が理想的であるので、可能であれば追加してほしい。	
	⇒事務局で再度検討する。	
	(2) 計画の最終案について	
	前回の会議から修正した部分について事務局より説明	
	(以下、意見等)	
	【会 長】 運動部の加入率を高めるような働きかけは、文化部軽視ととらえられてしまうと思うか。	
	【委 員】 文科省からの働き掛けがあり、スポーツ少年団の中学生バージョンを作る動きがある。そういった動きに対して教員としても協力できることがあると思っている。	
	現在も参加することはできるかもしれないが、そのことを指導者が知らないと思う。土日だけでも指導してもらえれば、部活動と社会体育の区別がはっきりし、教員の負担軽減にもなる。	

協 議 事 項 等

- 【委 員】 コーディネーショントレーニングを積んでいくことが重要であるので、もっと強調しても良いと思う。
- 【事務局】 高校生頃までが運動能力の基礎を固める時期であり、特に小学生までがゴールデンエイジと呼ばれるほど運動神経の発達に重要な時期である。この時期に運動を嫌いにならないように、またスポーツを楽しむきっかけとなるのがコーディネーショントレーニングであり、それに幼少期に取り組む機会を設けることで、身体を動かすことが好きな人を増やすことができる。そのため、まずは子ども向けのスポーツ推進の部分で重点的に取り入れたい。
- 【委 員】 18、19ページに「中学生女子などの運動への関心向上に向け、親子向けの講習の機会を設ける」という内容があるが、「親子向け」にどのような意義があるのか。今は親子という縛りで取り組むという機会は減ってきていると感じるが。
- 【事務局】 子どもだけでは取り組み始めにくいし、親子でともに参加することで、続けやすいと考えられるため、こういった文言を入れた。特に幼少期は親子のスキンシップが大切ということもあるので、子どものスポーツ推進の一つとしてあげている。
- 【会 長】 最後の策定委員会になるので、一人一言ずつ計画策定に関する意見や感想を言ってほしい。
- 【委 員】 現状分析を基に施策が作られており、わかりやすい計画になったと感じている。また、策定を通じてスポーツの持つ意味を再確認することができた。自分の取り組むスポーツでは競技人口が減ってきているが、新体育館の建設もあるので、人口を増やせるよう努力していきたい。
- 【委 員】 中身の濃い内容になったと思うが、市が関わると重たいものになるというのが正直な感想。アンケート結果では設備が整っていないという意見があったが、安曇野市は整っている方だと思う。県外でもスポーツに携わってきたが、人口の多い都会では体育館の予約はいろいろしないと予約を取れないということがある。歳を取ってくると出場できる大会も少なくなってくるが、今後もこうしてなんらかの形でスポーツに関わっていきたい。
- 【委 員】 大きなイベントではないが、同じスポーツをする市外の団体に安曇野を訪れてもらって交流することがあり、今後こういったことが増えていくといいなと思っていた。また、今は親ではなく祖父母が送り迎えをすることも多々あるが、そういった方は競技に参加はできないが、見ていてくれる。私はそういった「見る」という部分を増やしたいと考えている。そういったことは、第1次スポーツ振興計画では触れられていなかったもので、今回の計画に盛り込んでもらうことができ良かった。
- 【委 員】 自分の携わっているスポーツのことであれば、ある程度意見を出せるが、今回の計画は、扱う年齢や種目の幅が広く、部活動から社会体育までありとあらゆるスポーツを扱っており、あまり役に立つことができなかつた。ただ、これからは自分の教えている種目で計画を実践していきたい。
- 【委 員】 過去子どもの指導に関わっていたが、その競技を強くすることだけを目的にするのではなく、リズム運動や持久走などを取り入れて、その競技を離れたとしても将来的に活躍できるような人間を育てることを目的に取り組んできた。今思うと間違っていなかったと思うので、これからの指導者にはそういったことを踏まえて指導してほしいと思う。また、自分の関わるスポーツでも競技人口が減ってきているが、競技団体同士の連携は活発になってきているので、計画策定の際の皆さんの意見を参考にして、盛り上げていきたい。

協 議 事 項 等

- 【委員】 種目ごとに日本〇〇協会という全体の組織があるため、その教会の考えの中で動くことが必要であるが、地域ごとで人口に対する施設の数は異なり、安曇野市は自然も豊かで施設も充実しているので、安曇野では安曇野らしいスポーツ推進をしてもらいたい。
- 【委員】 第1次振興計画があることは知っていたが、内容は知らなかった。今回は策定する側に立ってみて、今度はこれが絵に描いた餅にならないよう、どう市民に浸透させ実行していくかが課題だと感じている。2年に1回進捗状況を振り返る、といったことが必要ではないか。また、現在、社会人で競技スポーツをやりたいという人がいても、スポーツ団体側の受け入れ環境が整っていないという課題がある。実際スポーツをやってみたいという人がいても、受け入れてくれる団体がないということが発生している。体育協会としてできることをやっていきたい。
- 【委員】 現在のスポーツ少年団は登録制で、登録している人が参加できるという仕組みになっているが、スポーツをする子どもを増やすためには、入っていない人も巻き込んだイベントを開催するなどして、登録の有無に関わらずやっていくことも必要ではないかと考えている。また、200人以上が指導資格を持っていながらも指導者として登録されていないので、そういった埋もれた指導者が活躍できるような場を作りたい。
- 【委員】 計画については全体的に非常に良くまとまっているという印象を受けた。ニュースポーツの教室を開催したりしているが、高齢者でスポーツをやりたい人には最適な内容であると思うので、引き続き頑張っていきたい。また、指導者同士の横の連携が必要であると感じているので、これからの課題にしてほしい。
- 【委員】 自分の携わるスポーツでは、インターネットを駆使した情報発信に力を入れたところ、若い人が参加するようになり、活気が出てきた。競技に携わる側から情報発信していくことが大切と分かったので、頑張っていきたい。
- 【委員】 総合型スポーツクラブの知名度の低さにがっかりした。数値目標に総合型スポーツクラブの知名度の向上をあげてもらっているので、この計画を観た人から知名度を上げていきたい。この計画が生涯スポーツの大切さに気付くきっかけになれば有難いと思う。
- 【委員】 資料編18ページに自由意見が160件も寄せられたと記載されているが、その中身が重要だと思う。ヒストグラム等により分析したり、14ページの「市民の望むスポーツ推進策」に関するアンケート結果と比較分析したりした方が良いのではないか。また、計画の実現にはお金がかかるので、予算をしっかりとってほしい。32ページに「関連行催事」という記載があるが、そういった言葉はあるのか。「催事」はいらぬのではないか。
策定委員の皆さんはしっかりと考えながらスポーツに取り組んでいるということ、この委員会を通じて感じたので、引き続き頑張っていきたい。

協 議 事 項 等

【委 員】 自らの専門分野であるジェンダーについての記載は外されないようにと思っていたので、中学生女子の運動離れの記載について残すことができ、良かった。計画の実現が大切なので、一市民としてしっかりと見守っていきたい。また、実際の現場で活躍する皆さんの声を聞くことができ、勉強になった。

【委 員】 現在の学校では、部活以外でスポーツに取り組みたいと考える人が活動する場がないのが問題だと感じている。(部活を引退した中学3年生が高校生になるまでの期間など)
また、親子でスポーツに取り組むということは、スポーツに親しむきっかけづくりになるというだけでなく、親子の絆づくりにつながるという利点もある。総合型スポーツクラブは、親子でニュースポーツを始め様々なスポーツに取り組むこともできるし、部活動以外でのスポーツの機会にもなるので、貴重な存在でありもっと活用されるべきだと強く思う。

【委 員】 歳を取ってから「元気なうちにスポーツをしておけばよかった」と思うようになった。歳を取ると自分からスポーツに取り組むということは難しくなるが、スポーツをしている人から元気をもらうことができるので、自分たちもできるだけことはするが、若い人たちで盛り上げて頑張っていってほしい。

【委 員】 第1次スポーツ振興計画では障がい者スポーツに関する記述がなかったが、今回の計画では大きく取り上げてもらえて良かった。障がいのある人もない人も共に障がい者スポーツに取り組めたら良いなと思っている。

【委 員】 スポーツの指導者については、体罰の問題や子どもを預かる責任の重さといった様々な問題があるが、スポーツの原点は、「楽しい」「仲間が増える」といったことであり、そこを大切にしていきたい。

【会 長】 競技力の向上等に関して、一つの競技の中だけでは限界があったり、行き詰まることがあったりする。競技ごとの縦の繋がりだけでなく、競技を超えた横の繋がりが大切であり、県ではそういった繋がりができるような取り組みを進めたいと考えている。それぞれの競技でいい時もあれば悪い時もあるだろうが、その時々でお互いに知恵を出して助け合えば解決に向かっていくと思う。
安曇野市でも、今後の計画の実現が重要であり大変なことであるので、子どもたちにスポーツを通じて夢と希望を伝えることができるよう、第2次スポーツ推進計画策定を通じてできた繋がりを活かし、協力して取り組んでいきたい。(可能であれば、計画が読みやすくなるよう、絵を入れてみてはどうか。)

【事務局】 皆様の協力のおかげで第2次スポーツ推進計画を作り上げることができた。示していただいた計画を基にし、スポーツの推進に邁進していきたい。また、本計画はこれから先10年の方針と、5年間の具体的な目標を示したものであり、2、3年ごと振り返り反省しつつ進めていきたい。

【会議終了】